

Spirit 2 使命感

武左衛門と農民の闘いは、藩に全要求を認めさせて終わりを告げた
後にその偉業を調べるため東奔西走した人がいた
「武左衛門と農民の精神を後世に伝える」という使命感を持って

後世に伝える使命

藩に要求を認めさせ一揆成功に導いた武左衛門の偉業。

このことを、後世に伝えようと東奔西走した人がいました。井谷正命氏です。

正命氏は、明治、大正期に武左衛門を発掘して、調査研究を進めました。

吉田町に向き、ありとあらゆる書物を調査。その中でも、「戸



井谷 正命

(いたに まさみち・1867～1934)

代々庄屋をつとめた井谷家の当主。23歳で旧日吉村の初代村長となった。北宇和郡会議長、県議会議員を歴任。私財を投じて私立日吉実業学校の設立や道路開発に力を注ぎ、村の発展に貢献した

外禁止録」を発見した時は、その重要性を見抜き、夜を徹してそれを転記しました。正命氏の情熱の甲斐あって、武左衛門と農民の一揆は後に語り継がれました。まさに「武左衛門らの精神」を世に広めた人なのです。

顕彰碑の建立

武左衛門のような偉人の墓石がないことを嘆いた正命氏は、顕彰

碑の建立を計画し、大正8年、私財を投じて山口県から巨大な御影石を購入。「濟世救民武左衛門翁及同志者碑」を製作しました。そして牛や馬に石碑を引かせ、日吉に持ち帰ろうとしました。

しかし、運搬途中で財源が底をつき、正命氏の計画は志半ばで中止を余儀なくされました。石碑はしばらくの間、宇和島港に放置されました。

その後、息子の正吉氏がその意

思を受け継ぎ、昭和2年、沿道の農民3千人に呼びかけて、顕彰碑を日吉地区の「明星ヶ丘」に建立しました。正命氏の悲願が実ったのです。

活動の原動力

正命氏をここまで動かしたものは！。

それは、「たとえ自分の生活を犠牲にしても、武左衛門の偉業は後世に伝えなければならぬ」という使命感だったのです。

正命氏もまた、偉業を成し遂げた一人なのです。



武左衛門の偉業を後に伝えようと、井谷さんが夜を徹して全て書き写し、それをまとめて本にしたもの。現在は複製品が鬼北町歴史民俗資料館で販売されている